

白藍塾オリジナル

2013入試小論文分析&解答のヒント

2013年3月発行

白藍塾の入試小論文分析は、他の予備校と違って、その問題に対して受験生がどのようにアプローチすればよいのかを具体的に説明している。そのため、この分析を参考にすれば、誰でも合格レベルの答案を書けるはずだ。該当の大学・学部の志望者は、ぜひ、これを読んで、自分で実際に答案を書いてみてほしい。

執筆・樋口裕一・大原理志・大場秀浩

●慶応・商学部

今年度も二つの大問から成っているが、計算問題がなくなって、記述問題が増えているのが特徴だ。また、課題文はどちらも経済の問題に直接かかわっている点が、ここ数年と大きく違っている。本来の商学部にあふさわしい出題になっていると言えるかもしれない。

Iの文章は、じっくり読めばわかるはずだが、「インセンティブ」という言葉を初めて聞いたというような人にとっては、用語法になじむまでが大変かもしれない。

問1のようなタイプの問題は、対立したり関連したりするワードの中から、文脈に合うように適切なものを選んでいけばよい。たとえば、(3)(4)は「快楽的」「刺激的」「支配的」のどれか、(5)(6)は「飴と鞭」か「北風と太陽」のどちらか、(7)(8)は「根源的依存性」か「根源的自発性」のどちらかが当てはまることは容易に推測できる。(13)(14)と(15)(16)は、「階級対立型」と「協調型」のどちらかがそれぞれに対応するだろう。

問2は、下線部の直後の文を読めばわかるように、要は当人の自発性に基づいているということ。

問3は、「インセンティブがない」と言えばそれまでだが、それでは答えにならないので、「生産者に苦勞して生産するだけのメリットがない」といったことを書けばよい。

問4は、そのほうが小作農にとっては生産性を高めれば高めるほど取り分が増えるから。

問5は、従業員の立場に立てばわかりやすい。コストを最小化しても、従業員の利益にはならない(従業員のインセンティブにはならない)ため、逆に生産性を低下させる恐れがあることを説明すればよい。

IIは、課題文そのものがかなり難しい。数学があまり得意でない人は、一見して頭を抱えるかもしれない。しかし、記号や数式に惑わされず、冷静に考えれば、答えは出る。

問1は、「機会主義」という言葉の意味を知らなくても、商品の横領という例が挙げられているので、それをヒントにすればよい。真ん中の三つはどれも正当な営利行為であって、横領のような不正行為とは言えない。したがって、最初と最後の項目が「1」、それ以外が

「2」となる。

問2は、それぞれの公式が意味することを理解する必要があるが、正確には理解できなくても、選択肢の範囲を狭めることができれば、そこから適切な答えを推測できるはず。たとえば、(c)は時間割引因子の記号が入っているため、23~25のどれかだということがわかるだろう。時間が経つほど賃金が割引かれるわけだから、答えは24。

(e)の $\alpha > q$ は、代理人にとっては失業しているより雇用されて不正を働くほうが得だということを表わしているので、答えは19。

(f)は、要は商人にとっては代理人が不誠実な場合の利得よりも、代理人を雇用しない場合の利得のほうが大きいわけだから、答えは21。

(d)はやや難しい。ただ、「誠実な代理人を利用した場合の商人の利益」「代理人を雇用しない場合の商人の利益」「失業中の代理人の留保効用」の三つの記号から成っているわけだから、商人と代理人全般の関係を表わす選択肢、つまり11~13の中から選ぶのが妥当。そもそも代理人の不正が得にならないシステムを解説しているわけだから、答えは11だ。

問3は、アとイは問題ないだろう。ウ~オは混乱する受験生も多いと思うが、代理人は一度不正を働けば二度と雇ってもらえない仕組みになっていることがわかっていれば、答えはわかるはず。1期目は不正によって14(ウ)を得られるが、2期目以降は失業するわけだから、18(エ)。したがって、14と18を足した利益が、誠実な代理人が生涯にわたって得られそうな利益(つまり、不正をしなければ得られたであろう利益)を上回らなければよいわけだから、オは31となる。

問4は、法による解決の代わりに、文中で説明されているような「多者間懲罰とも呼べる、非公式な制度・慣習」、つまり不正を働く者が不利になる仕組みが確立されていたから。

問5も、一瞬混乱しそうな問題だが、雇われる側の立場に立てばよい。不誠実な代理人は再雇用される可能性が低いことが自分でわかっているので、より高い賃金を望むわけだ。

問6は、商人と代理人の両方の立場に立って考えればよい。商人にとっては、誠実な代理人を安く雇えるわけだし、代理人にとっても、不正さえ働かなければ安定した雇用関係が結べるからだろう。

単純な計算問題がなくなっていたり、経営学の概念の理解が必要だったりする点では、例年よりも難しい問題が多い。ただ、本来の商学部らしい問題内容なので、商学部で学びたいことがはっきりしている受験生にとっては、かえってやりやすいはずだ。

◎執筆者の許可なく本紙の全部もしくは一部を無断転載、無断複写することを固く禁じます。

発行・白藍塾総合情報室 (03-3369-1179)

<http://www.hakuranjuku.co.jp>